

介護付有料老人ホーム

「ポート・ヒロック」

東京から那覇へ移住

沖縄県浦添市

東京から沖縄へ移住したのが、2013年4月ですので、早いもので5年の月日が流れました。

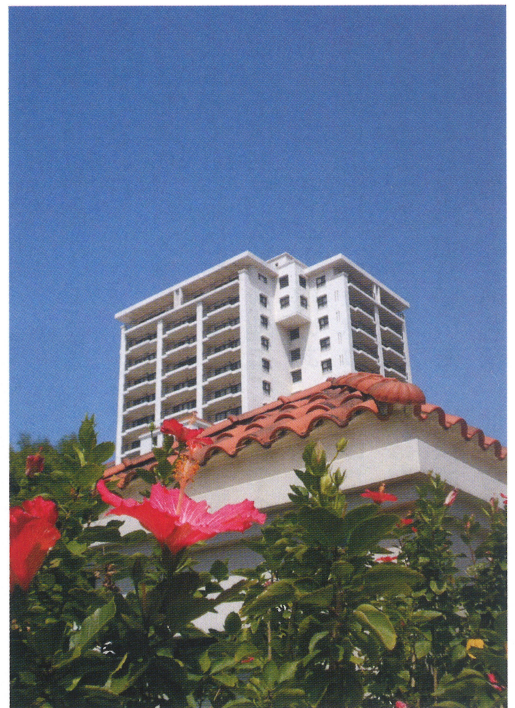
い、2008年、54歳の時に、会社を早期退職していましたので、東京を離れても支障のない状況でした。

2011年に東日本大震災を経験し、その当時も母と二人暮らしでしたが、ゆくゆくは一人で老後を過ごさなくてはならない、将来的にここで不自由なく楽しく一人暮らしをする事が可能なのだろうか？

震災後一年間程、移住に関して、ずっと考え続けていました。母にもその間、そのことに関して話していて、地震などの災害の少ないところ、沖縄に気持ちが動いていることも伝えていました。

またこれから歳を重ね、万が一、大きな災害に会った時に、災害弱者になり、一人で心細い思いをするのではないかと、震災をきっかけに考える事が多くなりました。幸

地震がなかった場所でも、これからは絶対に大きな災害はないという保証はないのですが・・・しかし沖縄は何度も仕事で訪れていて、私にとって親しみのある土地でもあ



▲ポート・ヒロック外観

りました。都会の様にビリビリしたものがなく、ソフトで温かみがあり、ゆったりと生活していくのに相応しい地の様に感じていました。移住の候補として、考えるのは当然だったかもしれません。

滞りました。幸い、モノレールの駅に近く、また買い物にも便利な場所に建築中のマンションがあり、モデルルームの見学に行きました。かなり販売済みも出ていると聞いて、とても気になりながら、帰京しました。

何時まで考えていても仕方がないので、2012年の春、マンション情報を集め沖縄を訪れた事のない母を連れて、観光がてら、那覇市に何日か

何日か真剣に考えましたが、これからの生活を考えると、マンションのロケーションが良く、生活しやすいという事で、購入を決めました。



▲東シナ海を望むプール

そしてマンションの完成を待ち、やっと一年後、2013年の春、那覇に移住しました。その後、月日はあつという間に過ぎ、私は60代に、母は80代後半を迎えました

ポート・ヒロック見学

以前から浦添市の東シナ海を眺めるように建つ海邦病院グループが運営するポート・ヒロックという介護付有料老人ホームが気になっていました。

一昨年2017年1月のシニアライフ情報センターで司法書士の方を囲んでの後見人制度のセミナーがありました。その申し込みで、シニアライフ情報センターにお電話した際、代表理事の池田さんから、セミナーで上京する前にポート・ヒロックを見学し、様子を聞かせて欲しいとお話がありました。

セミナーまで、日にちがなかつたのですが、自分たちも興味のある施設であり、今回、見学に行かなければ、見学の機会がいつになるのか分からないので、施設に連絡を取り、思い切って、正月明け早々1月4日に母とポート・ヒロック



▲一般棟居室

クを訪ねました。

見学の日は、暖かくとても気持ちの良い日でした。

バスを降り、バス停から7メートルくらい歩いて、すぐにポート・ヒロックの敷地に入りました。そして玄関のある高台の頂上まで、休み休み登っていききました

息を切らして、辿り着いた甲斐があり、頂上からの眺望

は美しく、また建物に入ってからロビーから、また食堂からも東シナ海が望め、画のような景色にとても感激しました。(入居者がお出かけの時は施設の車を利用できますので、坂を登る必要はありません)

今でも、こちらに入居した母を訪ねる度に、とてもすがすがしい気持ちになります。

沖繩はパワースポットが多いと聞きましたが、ここもそうなのかな？と感じています。最近、分かった事ですが以前はウエディングで人気のあった白亜の教会が建つてたという事です。

見学の日、まず、東シナ海を眺めながらゆつくりと昼食をいただきました。昼食と夕食はお魚とお肉の定食があり、選択になっていました。

他にもかつ丼、カレーなどの

アラカルトも有るようでした。

入居者には、あらかじめメ
ニューが渡され、1週間分を
前もって、注文しておくシス
テムです。

ゆったりとした昼食の後
は、館内を案内していただき
ました。

4階の図書室、トレーニン
グルーム、シアタールーム、
大浴場等まわりましたが、ど
こも掃除が行き届き、利用者
が気持ちよく使えるような様子
でした。

特に大浴場は広々としてい
て、外の美しい景色が見え、
まるで露天風呂の様で利用し
たら、さぞ気持ちが良いだろ
うと思われました。

また色々なタイプの個人の
お部屋も見せていただきまし
たが、お部屋も細かく分けれ
れておらず、ワンルームが、
大きな飾り棚で寝室とリビング
グダイニングに区切られてい

ました。現代風なおしゃれな
作りです。

また車いすで洗面室を使用
できるなど、全体的にゆった
りとしたつくりになっていま
す。収納庫が豊富なのもすつ
きりした生活が出来そうで、
それも便利だなと感じました。

そしてさらに広いタイプの
お部屋は和室付きで、心が惹
かれました。母と私は帰宅し
てからもここで施設に入居す
るとしたら、ポート・ヒロッ
クという気持ちになっていま
した。

母のポート・ヒロックへの入居
ポート・ヒロック見学後、
何となく普通の生活に追わ
れ、日々が過ぎていきました。

ところが秋頃になり、母が
自身の体の衰えを感じ、ポー
ト・ヒロック入居を口にする
ようになりました。

何度か私がポート・ヒロッ

クを訪れ、またホーム職員の
太田さんにも那覇の自宅に来
ていただき、こちらの事情等
もお話し、相談にのっていた
できました。

そして、年が変わり、
2018年1月24日に入居し
ました。

入居を決めた理由

○病院グループが運営す
る施設であること。

○一般棟と介護棟があり、
介護が必要になった時
は介護棟に移れる事。
また、体の調子がすぐ
れないような場合、介
護棟で一時、サポート
を受けられる事。

○後見人制度が必要な場
合、施設で紹介をして
もらえる。(私が必要
になると思われる。)

○元気なうちに先の事を
考え、困らないように

色々な事を準備しておきた
いと思っているが、丁寧な
相談に応じていただけるこ
と。
などが決め手になりました。

入居間もないので母は那覇



▲ガーデンにてエイサー観覧



▲理学療法士によるストレッチ体操

の自宅と施設と半々の生活をしていきますが、高齢で入居し、なかなか新しい環境に慣れない部分もあり、色々と職員の方に相談にのっていただいています。

冬場に那覇に滞在していらして、体操教室で知り合った東京の方がポート・ヒロック

に体験入居でいらつしやいました。事前にメールが来て、偶然に驚きました。

また、体験入居にいらした方の紹介で知り合った県外の方は、現在は冬場だけ沖縄に

住んでいらつしやいますが、何年かの中には沖縄に完全移住を将来的にポート・ヒロックへ入居を考えていると言っておられます。

今は国内であれば、昔に比

べ、気軽に住む場所を決める時代なのかもしれません。

私も何年かのち、ポート・ヒロックに入居したいなど思っています。

(大石)

住宅名	ポート・ヒロック	
開設年月日	2007年8月	
類型	介護付有料老人ホーム	
事業主体	株式会社 陽邦 (海邦病院グループ)	
代表取締役社長	富名腰 公子	
所在地	〒901-2131 沖縄県浦添市牧港5丁目7番7号	
電話	0120-87-1609	
最寄駅	車で那覇新都心から約10分	
居室概要	一般居室：92戸 (49.2～86.7㎡) 介護居室：60室 (24㎡)	
入居時条件	一般棟：自立・要支援1 60歳以上	
	介護棟：要支援2～要介護5 65歳以上	
契約方法	利用権方式 (前払い金方式)	
入居時の費用	入居一時金	一般棟：60～74歳 2800～5960万円 75歳以上 1860～3970万円
	健康管理・介護一時金	422万円～463万円
	初期償却	15%
	償却期間	60～74歳：15年 75歳以上：10年
費月用額	管理費	64,800円
	食費	64,800円 (1日3食 30日喫食の場合)
共用設備	スパ (大浴場、ミストサウナ、リラックスラウンジ)・エステルーム・ライブラリー・フィットネスルーム・プール・多目的ホール・茶室・庭園・ゲストルーム・娯楽室・シアタールーム・カルチャールーム1,2・レストラン・ロビーラウンジ・ギャラリー・売店・テラス・健康相談室・スタッフステーション・機械浴室・リハビリ室・理/美容室・リビングダイニング	